



市内には、食事や喫茶を楽しむだけでなく、人との交流や地域とのつながりが生まれるカフェがあります。障がいのある人の就労支援や、高齢者の生きがいづくり、子育て世代の交流など、それぞれの場所に込められた想いを紹介します。

問い合わせ 総務課☎38-2029 / 障がい福祉課☎38-2043
市民センター☎31-4995 / 国際文化推進課☎38-2115

1 ASHIYA Cafe supported by TSUMUGI

- 場所** 市役所北館 1階(精道町7-6)
- 営業日** 市役所開庁日の平日
午前8時45分～午後4時30分
- TEL** 78-6550



「福祉×デザイン」で生まれる、新しい“まちの居場所”

市役所北館 1階にある「ASHIYA Cafe」。コーヒーの香りが広がる店内では、障がいのある人たちが接客や商品づくりにいきいきと取り組んでいます。

一般社団法人ヤドリギアート代表の江藤さんは、建築やインテリア、和紙アートなど、“空間”や“美”をつくる仕事に20年以上携わってきました。ダウン症の娘の将来を考え福祉施設を見学する中で、「もっと社会と自然につながり、挑戦できる場所をつくりたい」と感じ、2022年に事業所を立ち上げました。

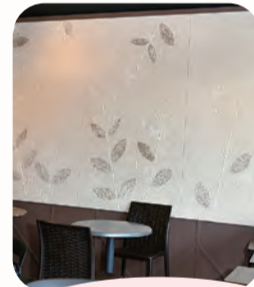
カップスリーブを回収



捨てられるものに、新しい価値を

活動の大きな柱の一つが、捨てられる素材に新たな価値を与える「アップサイクル」です。ビールの搾りかすを活用したお菓子づくりや、再生紙や六甲山の間伐材を使用した作品制作などを展開しています。

「福祉だから選ばれる」のではなく、「おいしいから」「素敵だから」選ばれる商品を目指しています。デザインの力を通じて、福祉のイメージそのものを変えていきたいと考えています。



店内のアートパネルは
カップスリーブが原料



一般社団法人ヤドリギアート 江藤さん



笑顔で接客する内田さん

“やりたい”を大切にする支援

2023年には、市役所内で「ASHIYA Cafe」の運営をスタート。市民が集まる公共の場で働くことは、スタッフにとって大きな挑戦でもありました。接客が初めての人も、レジに目印を付けたり、作業を分かりやすく工夫したりしながら、一歩ずつ成長しています。

「できないことを数えるのではなく、“やりたい”という気持ちを大切にしたい。」挑戦する機会そのものが、自信や意欲につながっています。

誰もが自然につながる“まちの居場所”へ

カフェには、高齢者や子育て世代、市民活動団体など、さまざまな人が訪れます。コーヒーを片手に会話が生まれ、偶然隣り合った人同士が交流することも珍しくありません。

「福祉のカフェではなく、誰もが自然につながれる“まちの居場所”にしたい」ASHIYA Cafeには、そんな想いが込められています。

会話が生まれる、みんなのカフェ

保健福祉センター内にあるカフェは、障がいのある人が働く就労継続支援B型事業所として運営され、多くの市民に親しまれています。スタッフは「おいしかった」「ありがとう」という言葉を励みに、日々工夫を重ねながら接客やオムライスなどの手作りメニューの提供に取り組んでいます。

カフェには、こども連れの方や高齢者、車いす利用者などさまざまな人が訪れ、自然な会話や交流が生まれる“地域の居場所”となっています。



3 CACHE-CACHE(カシュ-カシュ)

- 場所** 保健福祉センター 1階(呉川町14-9)
- 営業日** 平日・午前10時30分～午後4時
- TEL** 32-0441



コーヒーは豆から挽いて淹れるこだわり

